

よっぱらいお母さん

福岡県福岡雙葉小学校二年

豊田

華子

お母さんが よっぱらって

かえってこない

ひさしぶりの 同そう会で

たのしくなったみたい

はみがきは 自分でできる

おふとんは しいてあるけど

一人でねるのは やだ

まっくらだから さがしにいけない

かえってこなかったら どうしよう

あさの したく

かみの毛は むすべるようになった

朝ごはん パンがのこってたはず

さらあらい せんたく 後回し

学校のじゅんび 何とかなるかな

行ってきます の時

お母さんが ぎゅっとしてくれる

明日は どうやって ぎゅっとしてよう

目がさめた

だいどころから コンコンと

ほうちょうの 音がする

朝日が お母さんを

てらしている

ひざには 大きな あざが二つ

あーあ いっぱい考えたのに

わたしは お母さんを

ぎゅっとした

ままうれしいよ

岩手県北上市立南小学校 一年

佐藤^{さとう}

結衣^{ゆい}

なつやすみあかちゃんがうまれた

あかちゃんもちもちしてておもちみたい

たべたいな

ままにきいてみよう

ままがわらいながら

「いいよ」っていつてくれた

あむあむ あむあむ

あまがみしてたべた

ふわふわだった

あかちゃんかわいいな

ぎゅーつてするとあたたかい

まま、ありがとう

あかちゃんがきてくれてうれしいよ

反抗期

岩手県北上市立東桜小学校 四年

菊池

心乃

何かなつとくいいかない

「家族と話しているときは、

ゲームやめなさいよ。」

お母さんだってわたしが話しかけても

スマホばかり見てるじゃん

何かなつとくいいかない

「ちよつとは夕飯準備手伝いなさいよ。」

マンガ、せっかいいいところだったのに

わたしは、しぶしぶ手伝った

祖父はテレビを見ている

「何でおじいちゃんは手伝わないの。」

「おじいちゃんは、人生のせんぱいだから。」

と母

何か、なつとくいいかない

「最近、ココも思春期になってきたのかな。」

と母が言うので

「思春期って何。」

と聞いた

「体や心が大きく変化するときなんだよ。

だんだん反抗期も始まるんだろうな。」

「ココも、お母さんに反抗するかな。」

「するよ。」

えっと思った

「もし、ココがお母さんをたたいたいちゃったら

どうする。」

と聞くと

「受けて立つ。」

正々堂々戦わせていただきます。」

と母

…何かこわい

いつかわたしもお母さんに
反抗する 때가くるのかな
でも四年生で反抗期は
ちよつといやかも
お母さんとは
もうちよつと仲良しでいたい

おかあさんのとなり

愛知県 西尾市立中畑小学校 一年

倉地くらち

葵颯あおと

ぼくは五にんかぞくだ

二つ上のおにいちゃんと

六つ下のいもうとがいる

いままではかぞくみんなでねていた

おかあさんがいった

「ふたりとも大きくなったから、二だんベツ

ドをかうといいね。」って、

うれいような

さみしいような

でも、やっぱりさみしいきもちがつよくて

「おにいちゃんは三ねんせいだから、ぼくも

三ねんせいになってからだよ。」って、

おかあさんという

「ピンポーン。」

二だんベッドがとどいた

ぼくは

よるになるのがいやだった

二だんベッドにいった

ころころころ

おちつかないなあ

ころころころ

ねれないなあ

みんながねてから

こつそりしずかに

おかあさんのとなりにいく

もうちよつと

おかあさんのとなりで

ねさせてね

いろいろなおかあさん

広島県海田町立海田小学校二年

北島きたじま

彩羽いろは

でも どんな おかあさんも
だ——いすき

うちのおかあさんは

いつも にっこり

ではない

ときどき おこりんぼ

うちのおかあさんは

いつも めが ぱっちり

ではない

ときどき めが せんみたい

うちのおかあさんは

いつも おりょうり じょうず

ではない

ときどき しっぱいする

手をあげただけで

岩手県北上市立黒沢尻北小学校 三年

登嶋^{としま}

烈士^{れつじ}

ドキッ

ドキッ

後ろの入り口から

入ってきたのは

あれは、

お母さん

「来たあ」

「手をあげて！」の

お母さんの心の声が

ぼくには聞こえた

ドキッ

ドキッ

思い切って

手をあげた

当てられはしなかったけど

家にかえったら

いっぱいほめられた

お母さん

ぼく

はっぴょうしたわけじゃないのに

手 あげただけで

そんなにほめてくれるんだ

そうだった

お母さんはちっちゃいことでも

ほめてくれる

お母さん

ぼくこれからも

がんばって

手をあげるよ

こんどは

当てられて

はっぴようするところも

見せたいな

お母さん？

岩手県北上市立南中学校 一年

高橋 たかはし
和 のどか

でもおばあちゃん

なんだか不思議

お母さんはおばあちゃん

来年にはお姉ちゃんのことまがうまれる

また僕はおじさんになる

ほんと不思議だな

僕にとってはお母さんなんだもん

お母さん？

お母さんはおばあちゃん

お兄ちゃんの子どもがうまれたからだ

僕は12才だけとおじさんになった

なんだか不思議

お母さんはおばあちゃん

腰が曲がってるわけじゃないし

服も髪型もおしゃれ

ちいさいまま

鹿児島県学校法人さみどり学園さみどり幼稚園

増田^{ますだ}

あい

わたしのようちえんは

ままもいつていたんだよ

わたしは、ようちえんのじゃんぐるじむが

だいすき

おおきくて、すぐくないよ

ままもじゃんぐるじむにのぼったのかな

ままはようちえんでなにしてたかな

ちいさいままと、あそんでみたいな

5さいのままは、どんなのかな

わたしとままはなかよしだから

5さいのままともなかよしになれるよ

ちいさいままと、あつてみたいな

えらいね

愛知県 西尾市立中畑小学校 一年

稲垣 いながき

朝陽 あさひ

おかあさんは

「えらいね」って

いつもぼくのことをほめてくれるね

いちねんせいになって

ひらがながじょうずにかけたとき

「えらいね」って

にこにこわらってほめてくれたね

ぼくがなくしちゃったえんぴつ

みつけてかえってきたときも

おこられるかとおもったら

「よくみつけたね」

「えらいね」って

びっくりしたかおでほめてくれたね

あさねぼうしないではやくおきてこられたと

きも

「えらいね」って

おおきなこえでほめてくれたね

せがおおきくなったときも

「おおきくなったね」

「えらいね」って

うれしそうにほめてくれたね

そんなにほめられると

ぼく てれちゃう

おかあさんの

「えらいね」は

まほうのふわふわことば

こころがあつたかくなつて

うれしいきもちになって

ちよつぴりはずかしいきもちになる

まほうのふわふわことば

このまほう

ぼくもおかあさんにかけてあげるね

「おかあさん えらいね」

ありがとう おかあさん

岩手県北上市立黒沢尻西小学校 一年

齋藤

万寿

ぼくは ふたごのおとうと

おかあさんの おなかの中に

いたけど

ぼくたちは

むずかしい しゅじゅつで

うまれたんだ

ちっちゃく ちっちゃく

うまれたので

びょういんの ほいくきの中で

そだったんだ

元きなあかちゃんは どんどん

たいいんしていくのに

ぼくたちは ながいあいだ

ほいくきの中に いたんだ

そのとき おかあさんは

ぼくたちが ぶじに そだって

くれる ように

すごく しんぱいして

なんかいも おいのりして

くれたんだよね

やっとながいが かなって

ぶじ たいいんできたよ

そして いま ぼくは一ねん生

まだ たいじゅうは すくない

けど せも 小さいけど

これからは ごはんを いっぱ

いたべて

大きくなるからね

みていてね おかあさん

おてつだい

岩手県北上市立黒沢尻西小学校 一年

足立 あだち

渚 なぎさ

ママのおてつだい

ぼくのとくいわざ

ママといっしょに、せんたくほしたり、

たたんだり、ほうちようつかって

やさいをきったり、みそしるをつくったり、

もつともつとたくさんできるよ

ママみたいに、じょうずにできないけれど

ママのおてつだいがだいすき

ふたりでやるとはやいねって

ママが、いってくれる

とてもうれしいきもち

ママが、ぼくのみみのそばで

たくさんがんばってくれたから

10 えんあげるって

おにいちゃんにきこえないように

ひそひそばなし

もつとがんばっちゃうよ

つぎは、なんのおてつだいをしようかな

カレーづくり

岩手県北上市立和賀西小学校 一年

浦田

楓香

おかあさんが

じゃがいものかわむき

わたしは、しかくにきる

おかあさんがにんじんを はんぶんにきる

わたしは、にじのかたちにする

おかあさんが

たまねぎのかわむき

わたしは つきのかたちにする

いためて いるのは おかあさん

わたしは カレールーを

パキン

まぜたら

おいしいカレーのできあがり

おかあさんとわたしでつくった

カレーライス

みんな

おいしいっていつてくれるかな

ママとはたけ

岩手県北上市立和賀西小学校 一年

小原 将幻
おぼら しょうげん

ママと はたけにいった

なすを ぼきん

ぼくのかごに ぼん

きゅうりを

ぼくのかごに ぼん

だんだん おもくなる

もてなくなつてママにわたした

なすのいためものに なつた

にんにくがきいて おいしい

きゅうりは

みそとマヨネーズ

やさいが おいしくへんしん

またいこうね

おかあさん

岩手県北上市立飯豊小学校二年

齋藤 さいとう

汰弦 たつる

さん。

せかいにひとり。

ぼくのたいせつなおかあさん。

「ママ」

つてよぶと、

「そろそろおかあさんつてよんでほしいな

あ

とママは言う。

「おかあさん」

つてよぶと、なんだかうれしそう。

ぼくが大きくなったようであれしいんだっ

て。

「ママ」

でも、

「おかあさん」

でも、

ぼくのママはママだし、おかあさんはおかあ

いっしょにりょうり

岩手県北上市立江釣子小学校 二年

小山

蘭奈

心をこめて、おいしくつくったからだ。
またお母さんといっしょにつくりたいな。

お母さんとぼんごはんをつくった。

きょうは、カレーをつくることにした。

お母さんが言った。

「心をこめてつくろうね。」

わたしはこう答えた

「おいしくつくろうね。」

つくるのはたいへんだった。

やさいを切ったり、いためたり。

お母さんは、やさしい顔でつくっていた。

三十分もかかってかんせいした。

家ぞくでカレーをたべた。

みんなが言ってくれた。

「おいしいね。」

ぼくのおかあさん

岩手県北上市立江釣子小学校二年

高橋^{たかはし}

央成^{おうせい}

ぼくのおかあさんはお手つだいをしたらほめてくれるやさしい人

サッカーのしあいがあると

かならずおうえんしてくれる

大きい声で

おうせい！いけえ！

ってさけんでくれる

しあいがおわると

すごいね

つぎは、ここをがんばろう

って言ってくれる

しゅくだいは、いっしょにやってくれる

おわるとはなまるをつけてくれる

ぜんぶできると

ナイス！いいぞ！

って書いてくれる

学校に行くとき

いってきますって言ったら

がんばってね！

って言ってくれる

だからぼくはなんでもがんばれる

小さかったぼく

愛知県西尾市立中畑小学校三年

倉地

一颯

にこにこのお母さん

おこりんぼうのお母さん

ぼくは泣いてるお母さんを

あまり見たことがない

お母さんが言ってた

ぼくが生まれたときのことを

ぼくはみじゆくじで生まれた

一カ月も早く生まれたんだって

とつてもとつても

小さかったみたい

ほいくきに入ってる

小さなぼくを見て

ミルクが上手にのめなくて

「おギャー」って泣いてる

小さなぼくを見て

お母さんは毎日泣いたんだって

お母さん

ぼくが心配で

いっぱいいっぱい

泣いちゃったんだね

お母さん

だいじょうぶだよ

ぼく

こんなにも大きくなったよ

ママからお母さんへ

愛知県西尾市立中畑小学校 三年

春尾

壱弥

「ママ、ママ」

ぼくは、毎日何回ママと呼ぶのかな
ふと、気になった

「ねえーママー」

むいしきにママを呼んでしまう
うれしいこと、イヤなこと、
聞いてほしいこと、時間や

「ねえママー今日の飯なに？」

「ママ、これってどこにある？」

もう何回呼んでいるのか分からなくなった
気付くとママと呼んでいる

ぼくはもう三年生

ママと呼ぶことが

はずかしい気持ちになってきた
そうだ

「お母さん」と呼んでみよう

朝ドキドキしながら言ってみた

「お母さん、おはよう」

お母さんは

「急にどう、どうした？」と言ってきた

「嬉しい様な寂しい様な気持ちだな」って

ママは

僕の成長はとってもうれしいらしい

でも「ママ」と呼んでくれなくなるのは

さみしいみたい

あと何回僕はママにママと言うのかな

もうしばらく

ママと呼ぶことにした

次はいつお母さんと呼ぼうかな

ママのおい

岩手県北上市立飯豊小学校三年

佐々木

優那

「ママって、

なんかこう水のおいがするね。」

わたしがそう言うと、

「こう水はつけてないよ。」

ってママはいった。

こう水をつけていなくても

なんだかお花畑にいるみたいなの

においがする

わたしは、ハチになったきもち

いいにおい

お母さんの声

岩手県北上市立飯豊小学校 三年

佐藤

華楓

お母さんの声

かえちゃんラストだよ

お母さんの声

やっと聞こえたお母さんの声

かえちゃんガンバ

お母さんの声

そう言って送り出してくれた

一キロを走るえきでん大会

ドキドキするわたし

キョロキョロするわたし

たすきをつなぐことできるかな

お母さんが見てる

お母さんが何か言っている

聞こえないけど分かるよ

たすきをうけとって走るわたし

あついしわきばらがいたくなつたわたし

もう少しでたすきをわたせる

かえちゃんガンバ

海に行く

岩手県北上市立東桜小学校三年

福盛田 ふくもりた

和弥 かずや

はじめて海に行った

水がしょっぱかった

お母さんはさいしょはぼくを見まもっていた

「楽しいよ。」

とぼくが言う

そしたらお母さんも海に入ってきた

「きもちいいね。」

とぼくが言う

「きもちいいね。」

とお母さんも言う

なみにゆらゆらゆらゆらゆらゆらられている

だんだんクラゲの気分

お母さんとぼくで二ひきのクラゲ

帰ってきててもクラゲの気分

お母さんと甲子園まで

岩手県北上市立和賀西小学校 三年

照井てるい
涼介りょうすけ

岩手から甲子園球場まで

長い長いドライブ

甲子園 楽しみだね

お兄ちゃん、絶対勝てる

今日はホテルにとまるよ

車の中でお母さんと話した

ワクワクする気もちをおさえながら

家にいるときも話はするけれど

車の中でのおしゃべりは

とてもしんせんな感じ

いろんなサービスエリアによった

ラーメン、おいしいね

おいしいものをたくさん食べた

おみやげもたくさん買った

なんだかつかれたな

車にのると

ぐっすりねむっていた

いつのまにか、ぼくの体には

ブランケットがかかっていた

あったかいな、お母さん

大事な家族

岩手県北上市立黒沢尻西小学校 四年

足立あだち

琥珀こはく

弟が、けがをして病院に入院

そして手じゅつをすることになった

お母さんもつきそいで一しょに入院

ずっとずっと、はなれることのなかったお

母さんと弟が家にいない

こんな静かでさびしいんだ

弟は、手じゅつをしてがんばり、お母さん

は、ねないで弟の面どうをみている

ぼくも一しょにがんばらなければと、さび

しい気持ちにしまった

ぼくは、お母さんに弟の事がきらいだと言

ったことがある

そんな事を言われて一番ショックだと泣き

そうな声で、ぼくに言ったお母さん

二人がいらない三日間で、二人の大切さに気づいた

ぼくにとって大事な人だと

お母さんは、ぼくが思っている事は全て気

づき、ふしぎでいつもおどろいている

だから、入院中もぼくに電話をかけてきて

はげましてくれた

ぼくが学校から帰ってきたら、二人がたい

院して家にもどっていた

「よくがんばったね。ありがとう。」

と、お母さんがほめてくれた

うれしくて、はずかしくて、なかなか目を

合わせることができなかった

ぼくの家は、四人家族

四人が全員そろって一つの家族

だれもかけちゃいけないぼくの大事な家族

おかあさんと

岩手県北上市立南小学校 四年

高橋^{たかはし}

かな

楽しかったな

二人きりの時間

お兄ちゃんが修学旅行

おかあさんと二人きり

おかあさんと

いっしょにゲームしたり

おかあさんと

いっしょにテレビを見たり

おかあさんと

いっしょにごはん食べたり

おかあさんと

いっしょにおかし食べたり

おかあさんと

いっしょにもつを運んだり

おかあさんと

いっしょにだっこしてねたり

どうしておくの

岩手県北上市立東桜小学校 四年

平^{たいら}
健汰^{けんた}

たまにはいいかな
またいろいろつくえにおいていいよ

ぼくのつくえに、

くすりや、コップ、

いろいろなものをおいてくるお母さん

ぼくもいろいろつくえにおきたいのに。

ふでばこ

ゲーム機

次の日のじゅんぴの道具

いろいろおきたいものがあるのに。

なんでだと思いきえてみた

そうだ

ぼくのつくえがきれいだからだ

かいつつしたらすすきりした

ぼくのつくえをたよってくれてありがとう

いつもぼくがたよってばかりだから

「家っていいな」

岩手県北上市立黒沢尻北小学校 五年

赤坂

葉奈

お母さんと二人で初めての旅行に行った

初めての新幹線

初めての電車

初めてのことがいっぱいあった

お母さんと二人だけ

うるさく言う

お父さん、お兄ちゃん二人はいない

楽しかったけどホテルではたいくつだった

次の日、駅まで

お父さんとお兄ちゃん二人が

おむかえに来てくれた

やっと家に帰れた

やっと家についた

とっても安心した

自分の家が一番よかった

お母さんとけんかした

岩手県北上市立江釣子小学校 五年

及川おいかわ
瑛心えいしん

お母さんとけんかした。

すこしイラツいた。

お母さんはもっとイラツいた。

二人ともイラツいて、いっぱい話し合った。

でも。

ひさしぶりにいっぱい話をしたな。

すこし楽しかったな。

お母さん、ありがとう。

お母さんの恋

大阪府創価学園関西創価小学校 六年

重根

清

「ねえねえ教えてよー。」

「お父さんとどうやって付き合ったの？」

どこで出会ったかは知っているけれど、どうして付き合うことになったのかは教えてくれない。中学生のお兄ちゃんは、

「興味ない」

お盆の時に会ったおばあちゃんは自分のモテた話をしてくる。

お父さんに聞いてみると、

「どうしてだろうね？」

結局よく分からない。

お母さんはどうしてそんなに知りたいの？とぼくに聞いた。

「だって、おばあちゃんがモテたってこと

は、お母さんもモテたんでしょ？」

お母さんは大爆笑をした。

「なんで笑うの。」

「ぼくは自分が産まれてきたことを知りたいから、お母さんをくわしく知りたいんだ。」

お母さんは大好きだよと言ってだきしめられた。

「まだ答えを聞いてないよ。」

ぼくとお母さん

岩手県北上市立飯豊小学校 六年

及川 おいかわ

璃空 りく

「ポジティブに考えよう」

ぼくは大笑い

こんなお母さん最高じゃん！

ぼくの前歯は、お母さんと同じ

体がかたいのも、お母さんと同じ

かたづけが苦手なものも、お母さんと同じ

おこるとさけぶのも、お母さんと同じ

背が低いのも、お母さんと同じ

どうしていやなところばかり

親に似てしまうのだろうか？

何かダメなところがあると

お父さんが言う言葉がある

「お母さんそっくりー」

最近、お母さんが言う言葉がある

ぼくとお母さんの似ているところ

岩手県北上市立飯豊小学校 六年

金田 かねだ 空 すかい

ぼくの手は汗っかき

きん張しなくても、手汗が出る

えん筆を持つと汗で滑る

ゲームのコントローラーにも汗が付く

本当に厄介な手汗

どうしてぼくは手汗が出るんだろう

そういえばお母さんも手汗で困っていた

お母さんに聞いてみた

するとお母さんは「遺伝だね」と言った

遺伝てなんだ

遺伝とは、親から子へ生物の特徴を伝える

ことらしい

ぼくはお母さんに似たんだ

他にはどんな所に似てるかな

目、鼻

形が似ている

髪の毛が多いところも似ている

じゃあ、性格は

人前できん張するところ

お母さんも人前できん張するんだって

ぼくと同じ

歌うことが好き

ぼくが歌っていると

お母さんも一緒に歌ってくる

これは遺伝かな

ぼくとお母さん

比べてみると似ているところがいろいろあつ

た

似ていてうれしいところと

いやなところもあつたけど

お母さんの子供なんだと実感しました。

背比べ

岩手県北上市立飯豊小学校 六年

藤田 ふじた

呂偉主 ろいす

お母さんの身長百六十四センチ

小さいころはいつも見上げていた

六年生になった今、気づいたら

目線が一緒だった

鏡の前でお母さんと背比べをしてみた

あと二センチくらいで追いこせそうだ

それから毎日のように鏡の前で

背比べをしていた

「あと少し、あと少し」

追いこせそうで追いこせない日が続いた

ある日、お母さんと会話をしていたら

僕のほうが目線が高いことに気がついた

急いで鏡の前でお母さんと背比べをした

「よっしゃ、こしたぜ」

と、僕はさげんだ

「こされたー」

と、お母さんが言った

そしてすぐ

「やっぱりか、足の大きさも二センチこし

てたもんね」

と喋っていた

僕はにやりと笑った

僕は身長も足の大きさもお母さんに

勝ったことがうれしかった

と、よろこんでいる僕に

「あんた、お母さんのおいしい手料理を食

べてるから、大きくなったんでしょ」

と、上から目線で言ってきた

確かにそうだな

お母さんの手料理は

当分追いこせそうにないな

ぼくとお母さんの笑顔になる合言葉

岩手県北上市立江釣子小学校 六年

小原 おぼら
蒼翼 そうすけ

「いってきます」

「今日も楽しんで」

毎日お母さんと朝学校に行く時の会話

野球の練習試合や大会も

「全力で楽しんでね」と言われる

前に「どうして『がんばって』って言わな

いで、『楽しんで』なの？」と聞いたら

「だって何でも全力でがんばっている人に

同じ事言ってもしょうがないでしょ？

それならば全力で楽しんでもらった方が

ママはうれしいよ」と言われた

ぼくは全力で楽しんでいる姿を見せたい

そうするとお母さんは笑顔でおうえんして

くれる

今日の朝もぼくとお母さんの会話

「いってきます」

「今日も楽しんでね」

ぼくはこの言葉が大好きだ

メーターとスイッチ

岩手県北上市立東桜小学校 六年

高松^{たかまつ}

夢^{ゆめ}

ふだんあんまりおこらないお母さん
兄弟げんかをしていても
優しく声をかけてくれる

でも

妹がずっとぐずぐずしていたり
弟がランドセルを置きっ放しにしたり
私が見たらだらしなかったりすると
怒りメーターにパワーが充電されてしまう
あつ

末の妹がおみそしるをこぼした
怒りメーターが振り切れる
そして私は気づく

(間もなく怒りスイッチがおされる)

その後

爆発するような音が聞こえる

このスイッチがおされると
いつものお母さんではない

私たちは静かに待つ

スイッチがオフになるのを

優しく声をかけてくれるのを

「さあ おふろにしよっか」

お母さんのスイッチは切り替えが早い

お母さん

岩手県北上市立東桜小学校 六年

多田

侑叶

毎日お母さんとけんかばかり。

長い反抗期はまだまだ続きそうだ。

今日もけんかと愚痴でいらいらするだろう。

お母さんなんて大嫌い。

だけど大好き。

お母さんはいつもいらいら。

そして私のことをしかる。

だからお母さんのことが大嫌いだ。

だから私はかげで愚痴を言う。

私は反抗期。

自覚している。

愚痴を言いながら、

お母さんの優しい所を考えると

少しだけ胸が痛くなる。

私が言い返さなければ、

お母さんも笑顔でいられるだろうな。

でもわき出てくる思いは止められない。

やっと書けた

岩手県北上市立南中学校 一年

高橋^{たかはし}

光希^{みつぎ}

ああ、やりたくねえ

お母さんの詩って何だよ

そもそも書くこと思いつかねえし

「ちゃんと書いてよ！」ってお母さん

となりで笑ってるし

ママは自分のこと、こう書けとか言った

けど、おれは「嫌だ！」と言った

二人で、あーでもないこーでもないで、

久々に大笑いしてた

詩を二人で考えるってなんか楽しい時間

だったな

この宿題も悪くなかったな

僕と母

千葉県我孫子市立佐中学校 一年

馬場ばば

稀大まひろ

僕と母はよくケンカをする。

僕は母を本気で嫌いになる。

なぜって

怒られている時に僕の言い分けを聞いてくれない。

勉強しているのに勉強しろってすぐに言う。

朝眠くて起きれないと容赦なく起こしに来る

まだまだある。

そうなるはずっと口を聞かなかつたりする。

なのに、気がつくくと嫌いな気持ちが消えている。

仲直りは完全にしたわけではないけれど、学校での話をよく話すようになる。

くだらない話も長くしている自分に気づく母が疲れている時には肩をもんであげようと思ったりする

困った事があると母に相談しようとまず思う

なのにすぐケンカする。

母も言う「めっちゃかわいい時とめっちゃ腹が立つ時がある」と。

きっと同じだ。これから先ずっと続くのだろう。

一つだけ母には勝てないところがある。

うそがすぐにバレる。

母が僕の顔を見て「何かあった？」と聞かれる時はほぼ何かあった時。

どんなにあがいても僕は最後に母には勝てないかもしれない。

愛の形——ハサミムシの母

岩手県北上市立和賀西中学校二年

菊池きくち

彩椋あやと

そして子どもたちは母親の体を食べ始める

母親は少しずつ体を失う

失った体は子どもたちの血や肉になる

ハサミムシの卵を守るのは母親

ハサミムシの卵を産むとき

すでに行方がわからなくなっている父親

子どもは父親の顔を知らない

卵がかえるまでの間

母親は卵のそばを離れない

餌を口にしない

ずっと世話をし続ける

卵がかえる日

孵化したばかりの小さな幼虫は

獲物を獲ることができない

空腹に耐えながら母親の体集まる

遠ざかる意識の中

母親は何を思うだろう

どんな思いで命を終えるのだろう

デートの予定はありません

神奈川県 日本大学第三高等学校 二年

木村

創

十六歳の誕生日

彼女できたらおしえてね

彼氏できてもおしえてね

母さんはケーキ片手に笑ってる。

多様性の時代だからねえ

自分の気に入るようにしなねえ

受け入れてるのか。

あきらめてるのか。

訳のわからない力加減

彼女ができるみこみなし

彼氏ができるみこみなし

母さんごめん、まだ無理みたい。

デートの予定はありません。

成人するまで、あと二年

ちようど二年で「大学生」
きつと彼女もできますよ。
だから、母さんあと二年
もう少し僕とお茶してね。